



おには外！福はうち！

寒い日が続いていますね。空気が乾燥していて、マスク姿の人を多く見かけます。インフルエンザも流行しているようですが、特にノロウイルスの流行がニュースをにぎわせていますね。一番簡単な予防法は、しっかりと手を洗うことです。年度末に向けて、慌ただしい時期ですが、体調を整えて元気に乗り切っていきたいですね。



相談室から ～お願い～

今年度の教育相談の取り組みについて、私たちの反省のために、アンケートのご協力をお願いしています。来年度の取り組みに生かしていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせいただくと嬉しく思います。また、来年度の教育相談についての希望調査もお願いしています。記入・提出をよろしくお願いいたします。

なお、来年度本校に入学の子どもさんについては、教育相談は卒業となります。4月に入学してからは、教育相談では各学部や担任と、取り組みの内容や課題等を丁寧に引き継ぎ、必要に応じてサポートする予定です。



体験を通して力を伸ばす

視覚に障害を持つ子どもたちは、視覚から情報を得ることが難しいため、私たちが生活中で自然に覚えたり、身につけたりできるようなことでも、一つ一つ意図的に体験させることが必要になります。

①本物にふれることを大切にしましょう

身近な植物、食べ物、動物など、近づいて見たりさわったりして本物にふれましょう。触覚、嗅覚、味覚など、あらゆる感覚を使って観察することで、イメージが大きくふくらんでいきます。実際にさわることができないものは、模型や絵を使って特徴をつかみやすくしたり、言葉での説明で補足したりしましょう。



②見ている世界を伝えましょう

たとえば、きれいな花を見つけた時、「きれいねえ」と感動を言い表したり、「黄色くて小さくてかわいいお花だよ」などと、具体的な言葉で話したりすると、伝わりやすいです。「風があたたかくなってきたね。もうすぐ春かな」「黒っぽい雲がでてきたよ。雨がふりそうだね」など、季節や自然を感じるような言葉かけも大切です。



③体験を通して知識を広げましょう

視覚障害がある子どもの中には、自分で観察して知ることが難しく、物の変化について知らない子どもが多いです。例えば、ホットケーキは、小麦粉、卵、砂糖、牛乳からできていること。お湯や氷は水からできていることなど、私たちが当たり前と思っていることも、実際にさわったり体験したりして意図的に学ぶ必要があります。

④いっしょに身体を動かす遊びをしましょう

見えない・見えにくい不安から、行動範囲が狭くなりがちです。まず大人と一緒に遊んで、体を動かす楽しさを体験させてあげましょう。動きを真似ることができないので、一緒に遊ぶ中でいろいろな動きを覚えられるように工夫しましょう。

本校では、様々なことを体験・遊びを通して学べるような工夫をしています。その一つに「さわってさわってコーナー」があります。野菜、果物、昆虫等々、できるだけ本物を用意し、登校時に、触ったり、におったり、食べたり、様々な感覚を使って観察しています。毎日の積み重ねによって、物への興味関心が高まり観察力もついてきています。

